

戦争体験を聞く 第5回

今回は、患者のOさん(88歳・女性)に、1年目事務職員の柴田和也さんがお話しを聞き、その報告をしました。

テーマは「**東京大空襲の体験談**」です。要約を掲載します。



六人兄弟の長女として東京に生まれ、戦争が始まり、家にある金目のものは全て没収され軍事兵器の元となった。犬や馬なども軍犬、軍馬として人間と同じように戦場へ送り出された。食事は配給制だったが、月に一〇日間分しか配給されなかった。

東京大空襲は一七歳のときに体験した。三月九日から一〇日の朝にかけてだった。爆撃機のガソリンによって、黒い雨が降っていた。まだ小さい兄弟もいたので、外の防空壕へ避難できず、家中にある防空壕で身を潜め、家も黒いカーテンでしきり、爆撃機から見つかからないようにしていた。防空壕に逃げようとしたが二五〇キロの爆弾の投下による空気振動によってゆれてうまく歩けなかったという人もいたと後から聞いた。空襲が一旦おさまれば食料を求め焼け落ちた場所へ移動した。その際、父が家族全員を帯でつないではぐれないようにした。しかし、火は出ていなかったので食料庫は焼けていたため米は食べても焦げの味しかせず、たくあんは周りが焦げていたため中だけしか食べられなかった。ただ、今思えば家族誰一人死ぬことなく本当に良かった。埼玉の農家のさつまいもを求めて多くの人が列車に乗り向かった。列車は常に満員で窓から乗る人もいた。埼玉に着いても農家の人は普通には売ってくれず着物やたばこなどを持っていった初めて闇値で売ってくれた。しかし、買ったものは駅にいる警察に何を持っていか怪しまれ没収された。

【伝えたいこと】 今の若者に話しても夢のような話だから分らないだろう。身内が戦地へと召集され駅から去っていく姿が本当にやるせない気持ちでいっぱいだった。戦争は絶対にしてはいけない、何も生み出さない、実際に体験しないと分からない。平和な日本でいてほしいと願っている。

米国と財界の要請だ！



戦争法反対の運動の中で、「戦争はダメ」「9条を守る」大切さを学

戦争する国づくりになぜ固執するのかを解明しました。一つは、戦後の日本の支配者はアメリカの指示のもと動いてきたこと。二つ目には、軍需産業や原発製造する大企業の要請で国の政治が動いてきたこと。「武器輸出三原則」も投げ捨てて、政府が世界に原発や武器輸出のセールスするのもその表れです。第三には、安倍政権が急に戦争

びましたが、それでもなぜ安倍政権は戦争することに固執するかが理解できず、今回の学習会の運びとなりました。石山さんは、次の3点から安倍政権が

表れです。第三には、安倍政権が急に戦争



が行いました。「戦争体験を聞く」は柴田和也事務員が発表しました。(勤医協空知介護医療センター長・社会福祉法人協立いつくしみの会理事長)

テーマは「戦争法廃止！憲法9条を守れ！参議院選挙で野党が勝利！なぜ安倍政権は「戦争する国づくり」に固執するのか？」と題し、講師は石山建治さん

6月20日、学習講演会を開催し、在宅職員を含め26人の参加がありました。

平診九条の会 かべしんぶん

2016年7月号

(通算32号)

発行：平診9条の会

野党は共闘！

参議院選挙の投票日は7月10日。

アベ暴走政治を選挙でストップ！

みんなの一票が政治を変える！

戦争法を廃止する候補に一票を！

今年も原水禁世界大会に平診より2名の代表を派遣します！

約40万円の募金・署名・千羽鶴もよろしく！

ご協力よろしくお願ひいたします！

**核兵器のない
平和で公正な世界を**

広島大会
8月4日(木)開会総会
8月5日(金)分科会
8月6日(土)閉会総会

被爆者の願いは核なき世界

2016 World Conference against A & H Bombs
* 原水爆禁止2016年世界大会



参議院選挙 7月10日投票日
期日前投票も利用し、
必ず一票を投じましょう！



木村 志穂さん(看護師)

私は広島を訪れたオバマさんの言葉から積極的に核兵器を廃絶する姿勢を感じることはできませんでした。一緒にいた安倍首相はどう考えているのでしょうか？日本は世界で唯一の戦争被爆国です。日本がとるべき姿勢は核廃絶に向けて積極的に行動することだと思います。原水禁世界大会に参加して学び、知識を深め核へ核廃絶の運動を少しでも広げていきたいと思ひます。戦争のない、核のない平和な世界を心から望みます。

臨坂謙一郎さん(放射線技師)

高校生のときの修学旅行で、広島原爆ドームを訪れた際に戦争の悲惨さを肌で感じましたが、まだ当時の私はまだ考え方も幼く、わかったつもりになっていただけだったように思ひます。戦争反対・憲法改悪反対を掲げた平診9条の会で、戦争体験者の生の声を聞き、学び考えてきました。今の私はどう感じるか、そしてこの大会で学ぶことをこれからの取り組みにどう活かせるか期待でいっぱいです。

平診9条の会運営委員会は7月25日(月)午後5時15分
平診会議室 or リハ室原水禁世界大会派遣壮行会を兼ね開催します。



「怒りは限界を超えた」「海兵隊は撤退を」とメッセージボードを掲げて抗議する県民大会参加者=6月19日、那覇市



「する国づくりを始めたのではなく、戦後保守政党は一貫してアメリカへの追従と忠誠を誓う構造が作られてきたのです。最後に、その政治の象徴が沖縄にある。沖縄県民はその政治にノーを出している！」と締めくくりました。

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名
「被爆者は核兵器廃絶を心から求めます」

の一節より

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の変死爆弾は、一瞬に広島・長崎を破壊させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。

